

東アジアの社会と文化

担当者 河合 和男

開講時期 前期

単 位 2

●講義の概要

東アジアは、第二次世界大戦後に独立を果たして以降もなお、19世紀に定着した「アジア的停滞」論の延長で語られることが多く、長らく「停滞」のイメージが支配的であった。しかし、1979年にOECDが『新興工業国の挑戦』と題するセンセーショナルなレポートを発表してNIESの工業化の成功を喧伝して以降、東アジアは「成長」の代名詞として語られるようになった。

その後、世界銀行が『東アジアの奇跡』（1993年）と題する報告書を発表するに及んで、「成長するアジア」像は揺るぎないものになった。

この講義では、「アジア的停滞」から「東アジアの奇跡」への「パラダイム転換」（その時代に支配的であった思考の枠組みの劇的な変化）がどのようにして起こったのかという点について、東アジアの文化との関係を意識しながら考えてみたい。さらに、経済発展と社会発展の関係についてNIESを歴史的事例として考えてみたい。

●講義の到達目標

東アジアの経済発展とそれらの国の文化との関係、ならびに経済発展と社会の変容について理解を深めることを目標とする。

●講義計画

第1回：「アジア的停滞」論の系譜（戦前および戦後）

第2回：パラダイム転換の始まり

第3回：「東アジアモデル」としての賞賛

第4回：「東アジアモデル」とは何か

第5回：「後発性の利益」と「圧縮された発展」

第6回：「東アジアの奇跡」と「開発独裁」について

第7回：「不均衡開発戦略」と「先富論」について

第8回：東アジアの局地経済圏Ⅰ・華南経済圏

第9回：東アジアの局地経済圏Ⅱ・インドシナ経済圏

第10回：北東アジアの局地経済圏構想について

第11回：北東アジアの特殊性について

第12回：「儒教文化圏」について

第13回：グローバリズムとセイフティーネットについて

第14回：「市民社会」とは何か

第15回：まとめ

●成績評価基準と方法

講義への出席、準備学習、受講態度などの授業への取り組み（60%）とレポート（40%）により、総合的に判定する。

●テキスト又は参考文献

・テキスト

坂田幹男『ベーシック・アジア経済論』晃洋書房、2013年。
2300円（税別）

・参考文献

講義中、適宜紹介する。

●受講上の留意点

東アジアの経済発展過程について関心を持ち、そして講義計画に沿った予習をしておくことが必要である。